

【東京】コロナ禍にコンサートを無料配信、東京都病院協会から感謝状-交響楽団はやぶさ副実行委員長らに聞く◆Vol.2

m3.com地域版

2014年、NPO法人「友情の架け橋音楽国際親善協会」が学生たちと共に、若者たちが音楽を通して社会貢献できる場として立ち上げた交響楽団はやぶさ。団員のほとんどが、全国からの医療系大学生および卒業生の社会人で構成されているというユニークなオーケストラだ。創立初期から活躍してきた同楽団実行委員会の副実行委員長の三村英旺氏と渡部眞仁氏に、これまでの活動や今後の展望について話を聞いた。（2021年9月1日オンラインインタビュー、計2回連載の2回目）

▼第1回は[こちら](#)



日本介助犬協会の活動紹介と募金活動を行ったコンサート

——コンサート開催時のテーマ、プログラム、共演者などはどのように決めているのですか。

渡部 団員の希望する曲、お客さまに楽しんでいただける曲、コンサートのテーマに合った曲を選ぶようにしています。例えば、2018年の第3回演奏会は、JAXAとのコラボコンサートで「～宇宙への招待～」と銘打ち、ホルストの「惑星」など宇宙っぽいドラマティックな曲を演奏しました。続く特別演奏会では日本とフランスの国交160周年記念をテーマにしていたので、サン＝サーンスやラヴェルなどフランスの作曲家の曲を取り上げました。

テーマやコラボ共演者に関しては、自分たちでやってみたいこと、共演したいと思いついた人について主催者をお願いすることもあれば、主催者から提案を受けることもあります。過去に行った日仏交流160周年記念コンサート、拉致被害者のためのチャリティーコンサートなど、学生レベルではコンタクトを取ることができない団体とは、主催者に対応していただいています。



三村英旺氏（写真中央）